

# ACCESS My Class

アクセス マイクラス

尾花沢小学校  
6年2組(34人)



## 先生からのひとこと

高橋 ヒロ 先生

とにかく明るくて、楽しくて仲の良い6年2組。友達を大切に、学級のために進んで働こうとする温かい6年2組が大好きでした。皆さんと過ごした毎日は宝物です。卒業おめでとう。

「明るい楽しい6-2」 私たち6年2組は「努め笑ひ努力、協力、笑顔の6-2」を目標に日々頑張っています。私たちのクラスでは金魚を飼っていてジャパンという名前をつけてみんなかわいがっています。いつも掃除をしたり餌をあげたりしているのも、ジャパンも元気に過ごしています。このクラスはみんな笑っていて、楽しいクラスです。今私たちは、算数を頑張っています。みんな、苦手なところや、更に得意にしたいところを進んでやっています。頑張ったおかげで2月の月例テストでは、みんな100点やいい点数を取れました。卒業までの時間が短くなってしまうかもしれませんが、「卒業セレモニー」を開き、みんなが号泣するいい思い出ができました。6年2組はいいクラスです。



尾花沢小学校6年  
五十嵐士琉さん(新町東)  
笹原有紗さん(新町2)



玉野中学校1年  
西塚 実菜さん  
(粟生)

「尾花沢中学校との統合に向けて」 私たち玉野中学校は、4月から尾花沢中学校と統合します。人数が増えることへの期待もありますが、不安もあります。そこで、この1年、少しでも不安をなくすために、特に学習とコミュニケーションをとることに力を入れて生活してきました。学習では、学級の人数も大幅に増え、授業のスピードも速くなると思います。そこで、先生や友達の話をよく聞き、疑問点を積極的に質問するようにしました。また、家庭学習の時間を増やして復習してきました。コミュニケーションでは、尾花沢中の皆さんとも楽しく話したいと思っています。だから、色々な人との会話に慣れるように、積極的に行動し、話をしてみました。4月になると、今まで一緒に生活してきた玉野中の1年生とは別々のクラスになると思います。でも、新しいクラスの中でたくさん友達を作り、新しい活動にも挑戦して、充実した生活を送りたいと思います。



## 地域おこし協力隊 奮闘記

Face book ▶  
尾花沢の魅力や地域おこし協力隊の活動報告を日々更新しています。ぜひご覧ください。



なんででしょうか、この物足りない感じは…。初めて雪が3日間降り続いた時に、いよいよ来たなと思いき、これからの雪との生活を覚悟しました。見ている分にはとても美しい雪の風景ですが、昨年初めて尾花沢の冬を過ごしてみても、生活となると大変なのがよくわかりました。2月でも畑の土が見える、雪の壁がない今年の冬に、ちょっと拍子抜けし、違和感すら覚えています。冬の間の農業の活動は、どこもななくのんびりしています。昨年同様ハウスで育てているグリーンアスパラやタラの芽、室内で栽培しているしめじの作業をしていました。今回初めてうーいの体験もしました。東京に居た時はほとんど食べなかった食材ですが、少しぬめりがあり、シャキシャキとした歯ごたえがとても美味しく、すっかりファンになりました。農業を通じて、改めて「食」の大切さを実感しています。今後もし色々な作物を学び、尾花沢の農産物を発信していけたらと思っています。



▲収穫したてのうーい

## 雪のない、のんびりな冬

2月の下旬にはメープルサツパ採集に行ってきました。去年なら雪が固く、定期的に雪があるからこそ山の斜面も歩きやすかったのですが、今年は雪が溶けかけたり、滑りやすく、足元が悪い中で木に穴を開ける作業はとても大変でした。雪山はこれまで何度か歩いていますが、雪が少ないともしっかりと大変なことがわかりました。



佐藤隊員



母校が閉校になっても、今年も11月には玉野中学校同窓会東京支部第52回大会総会を開催いたします。母校は消えても同窓会は存続させたいとは多くの卒業生の思いなのです。玉野中学校を巣立った皆さんの卒業生の心意気を大切にしていきたいと思っております。今年も例年通り10月上旬ごろに会報と共にご案内をお届けする予定です。皆様のご参加をお待ちいたしております。



玉野中学校同窓会東京支部  
会報編集部長  
宮嶋 喜代三さん  
(埼玉県在住)

## Letter from Metropolitan Area 首都圏だより 玉野中学校同窓会より 閉校後も続く同窓会

寂しい事ですが今年3月で玉野中学校は73年の歴史を閉じることになりました。開校以来3千891人の卒業生が巣立ちましたと記念に発行された「閉校記念誌」にありました。その玉野中学校の卒業生達が、毎年母校とふる里玉野を慕って東京浅草で同窓会を開いています。毎回百数十人前後の同窓生が、主に関東一円から集まります。年に一度の会合で、旧友との再会を喜んだり、懐かしがったり、恩師との面会に感動したりと、半世紀以上も続けた先輩たちからの心意気を受け継がれています。そして一昨年にはこの東京支部発足50周年を祝い、記念の大会を開催したり、記念誌を発行したりと絆の強さを確かめあつたところです。この歴史を、形として残しておきたいと機関誌会報「ふる里たまの」を発行しています。今年度で18号になりました。